



第28回渋川褥瘡ケア研究会 写真レポート

日時：令和元年11月11日（月）午後7時～8時30分

場所：渋川ほっとプラザ4階 / 司会：赤城開成クリニック 医師 高橋 敏 先生

○講演 「高齢者や寝たきりの方の熱傷について」

渋川医療センター 皮膚科医長 山中 正義 先生



高齢者の熱傷

- ・お湯をこぼした
 - ・湯たんぽで低温やけどした
 - ・ストーブに当たっていて居眠り
 - ・お風呂に入ったら、お湯が熱かった
 - ・たき火をしていて引火
- などなど

低温やけどにならないために！

- ・体温よりも温かいものを長時間押しつけない。
- ・カイロやあんかは皮膚に直接触れないようにカバーをする。
- ・就寝時には使用しない。使用中にうっかり眠ってしまわない。
- ・使用中に少しでも熱いと感じたら、すぐにやめる

低温やけどは予防が大事！
冷やしても、間に合わない。
とにかく、やけどしないこと！

とにかく糖尿病の人は気をつけてください！
糖尿病の人は、湯たんぽやあんかは
絶対に使っちゃダメ！

（講演資料より一部抜粋）

職種別参加人数			
職種	人数	職種	人数
医師	2	薬剤師	2
保健師・看護師	29	介護員	10
MSW・相談員	4	栄養士	2
ケアマネ	3	その他	6
		合計	58



今回は褥瘡を少し離れて、これから時期に増加傾向にある熱傷についての講義です。熱傷が中心となりましたが、関連して凍傷、また最近、話題になることが多い虐待の話も含め、高齢者に限定することなく日常生活で役に立つ講演となりました。低温やけどはゆっくり進行するので冷やしても遅い…電気あんか・湯たんぽやカイロを利用する人は多いと思いますが、温度には注意が必要ですね。

今回のキーワード：熱傷「まず冷やす！※低温やけど以外」凍傷「すぐ温める」虐待「不自然」

【次回開催予定】 令和2年3月9日（月）午後7時～／ほっとプラザ4階
「症例検討会」（予定）